

パフォーマンステスト「思い出スピーチ」(第8時)

測る力	話すこと〔発表〕＋〔やり取り〕：いちばんの思い出を2～3文で伝え、先生の質問に応じられるか(知識・技能／思考・判断・表現)
形式・時間	先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で(待機イス1つ)。30秒のスピーチ＋先生からの質問1～2つ。思い出パネルを持って来てよい。
ことばの条件	黒板の「3文の型」(My best memory is / We went to か We enjoyed / It was)は掲示したままでよい。パネルを見ながらでもよい(見ないで言えたかは評価しない)。絵カード(提示用1部)はテスト席に置いておく。

35人を回す テスト中、ほかの子は何をしているか(これが崩壊しない鍵)

グループ	やること	用意する物
A(テスト中の班)	順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする	思い出パネル
B	思い出アルバムのレベルアップ版(カードを見て「学年＋2文」を作って言う・小声で)。読み手は活動シート1の「よみあげ文」を上から順に(5枚で交代)	活動シート1・絵カード(班用)
C	パネルの仕上げ(学級と名前を書く・余白に色をつける)	活動シート2・色えんぴつ
D	振り返りカードの「6年間のまとめ」を書く(書けたら席でBと同じことをする)	振り返りカード(学校のもの)

1班終わるごと(9～10分)に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる(テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ)。1班8～9人・約1分×35人で35～40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと(待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ)。終わった子は、聞かれたことを話さない――後の子が思い出しテストになる。人前が苦手な子は、パネルを指さしながら1文ずつ言う形でよい――指さしも「伝える工夫」として同じ土俵で見る(測る力は変わらない)。



先生の質問カードと、評価しないこと

先生の質問カード この順に聞く（子どもによって2～3問でよい）

1 Hello! How are you?

（あいさつ・緊張ほぐし。ここは評価しない）

2 What's your best memory?

（My best memory is が出るか。パネルを見せながらでOK）

3 Nice! What did you do?

（We went to / We enjoyed を引き出す。出にくければパネルの絵を指して We went to ...? / We enjoyed ...? と型だけ示し、続きをI語で）

4 How was it?

（感想 It was へ。I語でも十分）

5 （ここで3秒、だまって待つ）

（質問が返ってきたら思判表a。出てこなければ次へ）

6 Thank you! See you!

（お別れまでがテスト）

評価しないこと 過去形の正確さは評価しない（go → went の言いまちがいは減点しない。かたまりで言えていれば◎）。どの行事を選んだか、その行事に参加できたかどうかとも評価と無関係——「休み時間がいちばんの思い出」でも満点。絵の上手さ・声の大きさも見ない。

ルーブリック（3観点）と記録シート

観点	a（十分満足）	b（おおむね満足）	c（支援が必要）→その場とする支援
知識・技能	My best memory is に We went to か We enjoyed と It was を続けて、したことと気持ちがつながる3文以上をまとめよく伝えられる	支えの質問を受けながら、思い出1文と感想を伝えられる	パネルを指しながら単語（sports day! / fun!）で伝えられる→型の掲示を一緒に指さして1文だけ再挑戦させる
思考・判断・表現	その場面が聞き手に浮かぶように語句と話す順番を選び、What did you do? などの質問に内容の合う答えを返すとともに、先生のことばが止まった場面では、自分から What's your best memory? とたずね返して、やり取りを続けられる	質問に合った答えを返し、伝えたい思い出を選んで伝えられる	質問と答えがずれる→質問をゆっくりくり返し、絵カードやパネルを見せて選ばれる
主体的に学習に取り組む態度（単元全体で）	パネルづくりや案内で、相手に伝わる言い方を自分で選び直し、相手が替わるたびに自分からも問いかけて、やり取りを続けようとしていた	活動に参加し、振り返りに手ごたえが書かれている	→振り返りの視点を一緒に選ぶ（「だれの思い出がいちばん心にのこった？」から）

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート 名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

番号	名前	知技	思判表	メモ（1語だけ）
1		a b c	a b c	
2		a b c	a b c	
3		a b c	a b c	
4		a b c	a b c	
5		a b c	a b c	
6		a b c	a b c	
7		a b c	a b c	
8		a b c	a b c	
9		a b c	a b c	
10		a b c	a b c	
11		a b c	a b c	
12		a b c	a b c	

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で。名前・活動名を入れ替えて使ってください。

【知技・a】外国語「My Best Memory」の単元では、小学校生活でいちばんの思い出について My best memory is や We enjoyed の表現を正しく使い、したことと感想を続けて伝えることができました。

【知技・b】思い出パネルに書いた3文をたどりながら、My best memory is のあとに We enjoyed と It was を足して話せるようになり、したことと気持ちをひとつづきで伝えられます。

【思判表・a】その日の様子が聞き手に浮かぶように、絵の見せ方と話す順番を選んで案内し、思い出ミュージアムでは How was it? の問いかけにも自分のことばで答えることができました。

【思判表・b】友だちにその日のことを知ってもらうために、たくさんの思い出の中から伝えたい一場面を選び、したことと気持ちが結びつくよう We enjoyed と It was の中身を決めました。

【態度】置いたカードの文を毎回声に出して言い、聞き取れなかった行事の言い方は先生や友だちに確かめながら、6年間の思い出アルバムを最後まで作り上げました。

【態度】お客さん役のときには What did you do? や How was it? をすすんでたずね、案内役のときには相手が替わるたびに言い方を選び直して伝えようとしてしました。

【はげまし型】パネルの4つのらんを最後まで書き切り、いちばんの思い出とそのときの気持ちを自分のことばで決めました。案内のときは絵を指さして My best memory is を伝えることができ、話せる文がふえてきています。

【接続型】小学校生活の一場面を選び、したことと気持ちをつないで英語で語り切りました。過去のことを話す言い方に音から親しんでおり、中学校で文の形を学ぶときの手がかりになります。

【発展・★3】思い出パネルづくりでは、したことを並べるだけで終わらず、It was の気もちの文も入れて4～5文を組み、読む人に伝える順番を考えて書き上げました。

書き方の型 ①活動名（具体）・②できるようになったこと（評価規準のことば）・③子どもの姿（1つだけ）の3点で書く。順番は入れ替えてよく、どれも同じ文型に見えないよう書き出しを変えてある。どの行事を選んだか・その行事に参加できたかどうかは書かない（欠席や転入の事情に触れることになるため）。書くのは「伝え方」の成長だけ。卒業前に保護者が読む所見なので、できていないことは書かず、次につながる言い方でしめくくる。★3は「教科書を超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。